

# リゾートトラスト株式会社

## 第 50 回定時株主総会 質疑応答概要

当社の第 50 回定時株主総会における、議題に関する質疑応答の概要、及び質疑応答の冒頭にご説明した、株主の皆様のご関心が高いと思われる事項についての概要を掲載いたします。

開催日時：2023 年 6 月 29 日（木）午前 10 時

開催場所：名古屋市中区錦一丁目 19 番 30 号

名古屋観光ホテル 3 階「那古の間」

### 【議題に関する質疑応答の概要】

Q1	他社がショッピングモールに株主専用のラウンジを作ってお菓子・コーヒーを無料にしているのに倣い、エキシブでもラウンジで株主兼オーナーには無料でお菓子やビールを提供することで、株主を増やすことにつながたらどうか。
A1	（議長 代表取締役社長 伏見） 施設サービスにおける株主優待につきましては、当社の会員様ではない一般株主様は利用できる施設が少ないことなど、株主平等原則等の法的な課題がございますので、頂戴したご意見も含め今後継続して検討してまいります。
Q2	労働人口が減っていくところが課題として挙げられているが、デジタル化について、どういう展開をしていくのか。「ChatGPT」等があるが、具体的にどういうことをしていくのか。
A2	（専務取締役 業務部門 管掌 兼 CCO 井内） 「ChatGPT」の活用につきまして、検討は行っておりますが、現時点では、社内での活用は行っておりません。質問として入力された文章を学習データとして取りこむことがありますので、企業情報や個人情報等を入力しますと、その情報が蓄積されて、事実上、情報漏洩となる可能性が高くなるのが、最も大きな懸念事項と考えております。 また、インターネット上の情報を収集するにあたり、収集した情報が正しいか否か、確証が取れないという点も懸念しております。

	<p>現在、システム会社から、情報が外に出ない仕組み（ChatGPT 側に取り込まれないような仕様のサービス）、禁止ワード等の設定により、企業情報や個人情報を、質問内容に入力できないサービス等の提案を受けておりますところ、情報漏洩等のリスクの回避に有効と判断できれば、当社も、このサービスを導入して、「ChatGPT」を活用していくこともあろうかと考えております。</p> <p>デジタル化（DX）につきましては、新しい中期経営計画についての方針に入っておりますので、しっかりやっていきたいと思っております。先の中期経営計画にて、既にシステム投資を行ってきたところではありますが、今後の人手不足等の労働環境の問題を考えますと、システムで対応できるもの、標準化できるものは、デジタル投資をして、汎用性を高めてまいりたいと考えております。また、DXによりデータが蓄積されていきますので、マーケティングに活用していきたいと考えております。</p>
--	--

Q3	第2号議案（監査等委員である取締役を除く取締役14名選任の件）について、当社は女性管理職、女性の役員についてどう考えているのか。
A3	<p>（議長 代表取締役社長 伏見）</p> <p>ダイバーシティの観点から、女性を含めた多くの視点を入れながら経営することが求められている中、現在、女性の取締役は社外取締役2名のみですから、女性管理職と併せて増やしていく必要があると考えております。職場環境を整えることで、女性管理職は少しずつ増えてきており、特にメディカルの女性管理職が増えてまいりました。ホテル部門、営業部門においては、さらに環境を整え、女性管理職を増やすべく、引き続き努力をしてまいります。</p>

Q4	女性の管理職の割合はどれくらいか。社外取締役の女性は優秀だとのことだが、社内で入社して育てている人はどのくらいで、将来、社内取締役になる見通しはあるのか。施設では女性が多く働いているので、もっと女性の部長、課長がいてもいいのではないかと。女性活躍について方針を聞かせてほしい。
A4	<p>（専務取締役 業務部門 管掌 兼 CCO 井内）</p> <p>当社グループ全体の社員数は約8,000人で、そのうち女性社員は約3,700人で、4割を占めておりますが、グループ全体の管理職は、男性が約1,300人、女性は約300人です。管理職に占める女性比率は18.3%です。当社は、2027年に女性管理職比率25%を目指したいと対外公表しておりますが、まだまだこれに届かない状況です。</p>

	<p>ただ、帝国データバンクによりますと、企業の女性管理職比率は9.4%が平均でありまして、当社の女性管理職の比率は18.3%ですので、平均に比べて高くなっております。過去には女性の社内役員もおりましたが、現在は社外取締役の女性が2名いるにとどまっておりますので、教育体制を整備し、女性管理職を増やし、そして役員へと登用していただけますよう、引き続き努力してまいります。</p>
--	---

Q5	<p>女性管理職増加、女性活躍に関して、女性社外取締役の二人の意見を求めたい。</p>
A5	<p>(社外取締役 野中)</p> <p>ジャーナリズムの世界で生きてきた身としまして、現場に答えがあるものと考え、ホテル、ゴルフ場の現場を実際に見てきた中で、女性社員にとって働きやすい環境を当社が実際に整備していることをご報告させていただきたく思います。</p> <p>大企業では社内恋愛禁止、配置転換等もあり、結婚が女性にとって仕事をやめるきっかけになっているところもありますが、当社では、お客様のお役に立つことを考えつつ、社内結婚した夫婦を近い場所に配置する等、配慮しております。</p> <p>ただ、残念ながら、この50年間、会員の皆さんに喜んでいただきたいという体育会の考え方が根強く、女性の育成が不十分であったことも現実でございますので、伏見社長を中心に役員の皆様から相談を受け、検討している状況にあります。</p> <p>私は、目標とする女性管理職の割合が25%でも少ないと思っておりますので、社外取締役としてのミッションとして1%でも増やしたいと考えており、プログラム作りを含めてお役に立てますよう検討してまいります。</p> <p>(社外取締役 寺澤)</p> <p>女性の管理職を増やし、社内取締役を登用するということが望ましいことは十分に理解しております。組織の中の人間行動論を教えている立場として、社外取締役として何ができるかを考えながら、女性従業員の状況を把握するために施設を回っておりますが、どの施設におきましても、女性マネージャーが生き生き働いていました。当社は、女性が働きやすい環境を作っていこうという努力を重ねておりまして、「愛知女性輝きカンパニー」として表彰され、女性管理職は他の会社に比べるとかなり多く、彼女たちが活躍できる場を作っていることも明らかになっております。</p> <p>今後は、女性社員と同じような割合で、女性管理職が増えていくのが理想ですので、なお一層尽力してまいります。</p>

Q6	会員兼株主である。株式を短期に売買することなく、長期的に株式を持ち続けてくれる株主を増やすために、株主にはラウンジの無料サービスを提供する等、ホテルでの株主特典を設けると良いのではないかと。
A6	(議長 代表取締役社長 伏見) 当社の株主優待において、現状も長期株主優待制度がありますが、頂戴したご意見も含め社内にて継続して検討させていただきたいと思っております。

Q7	ブランドアイデンティティの「ご一緒します、いい人生」を社長の言葉で説明してほしい。
A7	(議長 代表取締役社長 伏見) 「ご一緒します、いい人生」とは、相当前から使っておりますフレーズで、当社の思いを表し続けています。余暇だけではなく日常生活のいろいろな場面において、豊かな生活のお手伝いをしたいという意味でありまして、シニアライフを含めた会員様のライフステージに合わせて、我々のできることをご提供し、会員様に豊かに過ごしていただきたいというものです。 また、会員様だけではなく、ご家族、法人会員の従業員の方々に対しても、コンテンツの創造を行っていき、「会員制事業」というものを形作っていきたく思っております。 当社の会員権の価値は、口数と時価総額で計算することもできますが、会員様との長いお付き合いを通して、創造していく関係の中で作られるものですので、計算された数字よりもずっと価値の高いものだと考えており、ありがたいことに、海外の投資家からも注目されているところでございます。 今後のステージにおいても、例えば、会員の皆様とご一緒にSDGsに取り組み、地球にやさしいホテルを目指し、会社自体を成長させていただきたく考えておりますので、引き続きお付き合いいただきますようお願い申し上げます。

## 【株主の皆様のご関心が高いと思われる事項についてのご説明の概要】

### 株価対策について

(議長 代表取締役社長 伏見)

株価そのものの動きにつきましては、グローバルなリスク要因や一時的な市場のトレンドに左右される部分も大きく、一概には言えない部分がありますが、当社グループの企業価値を高めるためには、5月に発表しました中期経営計画のもとでグループ経営を推進し、持続的な成長の姿を実績で示していくことが、第一義であると考えております。

一般的な指標で分析してみますと、当社の時価総額は、例えば株価2,200円の時に約2,400億円であり、代表的な株価指標である「PBR＝株価純資産倍率」では約2倍、「PER＝株価収益率」では約20倍でございます。

日本市場においては、PBRが1倍未満となっている大手の企業も数多くある中で、当社が株主資本に対して約2倍の時価総額となっていることは、現状でも、一定の評価をさせていただいているものと考えております。

しかしながら、当社の過去の株価水準と比較しますと、「PER＝株価収益率」では25倍を超えていた時期もあり、時価総額では3,000億円が一つの目安になりますが、まだまだ今後、上昇させられる余地は大きいと考えております。

なお、当社の株価を評価していただくにあたって、難しい要素が大きく二つございます。

一つには、当社がどの業種、どのセクターとして見られるのか、投資家様によって評価の基準が違ってくるということです。

例えばホテル事業を手掛ける企業の中でも、プライム市場の不動産セクターと比較すると、当社の株価指標は極めて高い水準にあります。同様にサービスセクターの中で見れば、さらに高い水準の企業も数多くあるという状況です。

これについては、当社が「会員制事業会社」という独自の価値を創造する企業として、既存の枠組みに囚われない、独自の評価をさせていただけることを目標に、さらなる開示の充実やご説明に取り組んでまいります。

もう一つの要素には、当社の会計上の損益が分かりにくい、ということがございます。簡単に申し上げますと、会員制ホテルの開業の有無によって、業績が年度ごとにでこぼこしてしまうことです。

当社の会計上の業績数値は、どうしても、建物の開業やそれに伴う不動産の収益計上のタイミングによって大きく左右されてしまうという特徴がありますので、昨年や一昨年のようにホテル開業の無い年には、利益金額が契約の実態よりも小さく見えてしまうのです。

このことについては一昨年より、IR上の対策として、その会計期間の契約の実態

に応じた、実力ベースの評価上の売上高と利益額の指標を投資家様向けに開示することで、実力値で評価をしていただけるような仕組みも取り入れてきました。また、今後のホテル開発については、毎年1か所の開業をさせていくことで、会計上の利益を安定させる計画も発表しております。

この5月に発表した新たな中期計画では、今期に開業を迎える「サンクチュアリコート高山」以降、3期連続で新規ホテルの開業を迎え、3期連続で増収増益となる見込みを公表しております。

少なくとも今後数年間においては、概ね毎年1か所の開業を見込むことで、過去にあったような業績のでこぼこも発生しにくくなり、より安心して株を保有していただけるものと考えております。

一方で、日本の株式市場における直近の株価の動きにつきましては、東証のPBR1倍割れ企業に対する資本効率の改善要請や、世界的な著名投資家からの日本株への投資方針もあり、特に時価総額1兆円を超えるような大型の企業へ投資家の期待や関心が集まったことや、半導体等特定の業種・銘柄に買いが集まったことで、日経平均を押し上げたという報道があります。

逆に、それらの影響を受けにくい中小型株の銘柄については、株価が上がりにくい局面になり、日経平均の上昇傾向とは、異なった株価の推移をしていたと分析しています。

なお、当社が過去最高の株価を記録していた2016年前後については、2014年にスタートした「JPX400」というインデックスに選出されていたことや、ROEの水準が12%を超えていたこと、それらにより、外国人株主の割合も23.6%と、現状より5ポイント以上高かったこと等があげられます。

今後の株価上昇に向けて、新たな中期計画においては、ROEを現状の10%から、当時の12%水準まで引き上げていく方針を掲げており、これによって外国人投資家の割合も、20%台に回復させていく計画です。

当社グループの「会員制事業」には、既存の枠組みにはない新たな価値を、今後も産み出していける力があると考えております。

まずは、この中期経営計画を確実に実行し、グループ一丸となって様々な改革や業績の安定的な拡大を実現していきます。

また、それと同時に、より適切な還元策についてもしっかりと検討し、資本効率を高く意識した経営にも取り組んでまいります。

以上をもちまして、私からのご説明とさせていただきます。

※掲載内容は、株主総会開催時点の情報です。

以上